



第2次 つくば市国際化基本指針（案） —つくば市のグローバル化を目指して—

平成28年（2016年） 月

つくば市

目次

I 国際化基本指針策定の趣旨	1
II つくば市のグローバル化を取り巻く現状と課題	3
1 つくば市の外国人住民の現状	
2 国際化を目指したこれまでの取組の概要	4
3 つくば市を取り巻く国際的な環境の変化	5
4 グローバル化に向けた課題とその解決に向けた施策の方向性	
	8
III 国際化基本指針の理念	12
「世界が集い，世界に羽ばたくまちの創造」	
IV 基本施策	13
1 多文化共生社会が実現するまち	
2 国際連携により，世界に羽ばたき，つながるまち	
3 グローバルな魅力の発信により，人や投資が集うまち	
V 基本施策ごとの個別施策と主な取組	14
資料	26

I 国際化基本指針策定の趣旨

つくば市は、29の国等の研究・教育機関が集積し、民間研究所や関連産業を合わせると約300にも及ぶ世界的な研究開発拠点であり、約2万人もの国内外からの研究者が、最先端の研究に取り組んでいます。その一方で、古くから「西の富士、東の筑波」と称され、人々に親しまれてきた筑波山を有するなど、自然と先端科学が共存する都市です。

つくば市には、研究者や留学生を始めとして、8千人近くの外国人が居住しています。また、日本人住民の中には海外生活経験者も多く、つくば市は多様な文化を包含している都市ともいえます。

このような中、つくば市は、「住んでみたい 住み続けたい まち つくば」を未来の都市像として、国内外の多くの人が集い、誰もが安全・安心を実感できる、活力にあふれ、今後も成長を続けていく、そのようなまちづくりを進めるべく、新たに「つくば市未来構想」を策定しました。

その構想の理念の一つ「人を育み、みんなで支えあうまち」を実現するための個別施策として、「国際化の推進」が位置づけられています。その中で、世界に開かれた「国際都市つくば」にふさわしい、国籍、言語等の違いにとらわれない、すべての市民が安心して生活できる多文化共生のまちづくりが目標として掲げられており、関係機関・団体とともに外国人支援等に取り組んでいます。

一方で、つくば市は、東京から鉄道で45分、成田国際空港からは車で50分の距離にあり、科学技術都市としての知名度とその立地の良さから多くの国際会議が開催される中、市も積極的に関わって、平成27年10月に、科学技術都市による国際会議「ジャイアント・ハイレベル・フォーラム」が、平成28年5月には「G7茨城・つくば科学技術大臣会合」が開催されました。

今後は、国際化を目指した取組のみならず、筑波研究学園都市がこれまで

培ってきた科学・技術研究等のポテンシャルをさらに高め、「世界のつくば」として、世界に貢献する取組が、これまで以上に求められます。

このような状況を踏まえて、本指針は、「国際化」から、より地球規模、世界的な視野でとらえる「グローバル化」を進めるべく、つくば市戦略プラン等との整合性を図りながら従前の「つくば市国際化基本指針」を見直し、つくば市が取り組むべきグローバル化施策のガイドラインとして、平成32年度までを目途に策定するものです。



Ⅱ つくば市のグローバル化を取り巻く現状と課題

1 つくば市の外国人住民の現状

《参考：平成24年10月と平成27年10月の外国人住民数の比較（住民基本台帳人口数）》

平成24年10月1日現在			平成27年10月1日現在		
国籍	人数	割合	国籍	人数	割合
中国	2,759	39.0%	中国	2,893	36.8%
韓国・朝鮮	1,051	14.8%	韓国・朝鮮	910	11.6%
フィリピン	304	4.3%	フィリピン	327	4.2%
タイ	258	3.6%	インド	277	3.5%
インド	231	3.3%	インドネシア	261	3.3%
ブラジル	211	3.0%	台湾	245	3.1%
米国	165	2.3%	タイ	244	3.1%
インドネシア	146	2.1%	ベトナム	231	2.9%
ペルー	139	2.0%	ブラジル	208	2.6%
ベトナム	135	1.9%	米国	199	2.5%
その他	1,682	23.8%	その他	2,058	26.2%
計	7,081		計	7,853	

全国籍数 125か国
全国籍数 129か国

つくば市には、平成27年（2015年）10月1日現在、7,853人の外国人が住民登録しており、国籍は129か国に及びます。外国人の外国人登録法が廃止された平成24年7月以降の比較では、市の人口が全体で3%増加する中、外国人住民は11%も増加しています。中でも特にインドネシア及びベトナム国籍の方が増加しています。このように多くの外国人が在住しているのは、大学や研究機関さらには民間企業等が受け入れ体制の充実に努めてきたことが大きな要因であると考えられます。

また、平成27年6月に、首都圏中央連絡自動車道（圏央道）と東関東自動車道が接続されたことにより、つくばー成田国際空港間の交通アクセスが

さらに向上し、海外との往来の利便性が向上しました。さらに、茨城空港においては、友好都市である中国・深圳市を含む中国の主要都市との直行便が就航するなど、今後、在住外国人だけでなくインバウンド（海外からの旅行客）の増加も見込める状況にあるといえます。

2 国際化を目指したこれまでの取組の概要

「つくば市国際化基本指針」が策定された平成23年5月以降の、つくば市における国際化を目指した取組としては、指針の「多様な文化に出会い、理解し合える地域社会の創造」という理念に基づき、主に多文化共生の実現を目指した各種取組を、関係機関・団体とともに展開してきたところであります。

具体的には、外国人に対する支援として、情報の多言語化や市役所窓口における通訳機能の強化、一般財団法人つくば市国際交流協会をはじめとした関係団体等との連携による、語学支援や相談室事業などを実施することで、外国人住民の生活環境の整備に努めてきました。

また、外国人と市民との交流機会を創出するための施策として「国際交流フェア」や「つくばワールドフットサル」、市民の国際感覚を醸成するために「国際理解講座」や「City Chat Café」なども関係機関・団体等との連携・協力により開催してきました。

さらには、優秀な外国人研究者の獲得や、グローバルな人材を育成するための施策として、国際バカロレア認定校であるつくばインターナショナルスクールを茨城県や関係機関とともに支援し、市内の高等学校や大学と連携して国際化に対応した教育の拡充を図るとともに、公立小中学校における外国人児童生徒への対応向上にも努めてきました。

また、「科学技術都市つくば」をキーワードとして、フランス・グルノーブル市と新たに姉妹都市提携をし、従来からの姉妹都市・友好都市との交流も市民交流、経済交流など多岐にわたって取り組んできました。

3 つくば市を取り巻く国際的な環境の変化

前項の国際化を目指した取組等とともに、つくば市を取り巻く国際的な環境は、ここ数年で大きく変化しつつあります。その主なものは、以下のとおりです。

(1) フランス・グルノーブル市との姉妹都市提携

平成25年11月12日、筑波研究学園都市の閣議了解50周年を迎え、その集積の結実の一つとして、フランスの科学技術都市グルノーブル市と姉妹都市締結をしました。



グルノーブル市との姉妹都市提携の様子

(2) 世界有数の国際会議の誘致と開催

フランス・グルノーブル市との姉妹都市提携を契機として、両市の研究・教育機関等が中心となって、平成27年10月に、世界有数の科学技術都市による国際会議「ジャイアント・ハイレベル・フォーラム」が、つくば市で開催されました。

そして、平成28年5月には、主要7か国及び1地域の大臣等により、「G7茨城・つくば科学技術大臣会合」が開催されました。

これらの国際会議は、誘致の段階からつくば市や茨城県、関係機関等が積極的に関わり、オールつくば・茨城の体制で成功へと導きました。



平成28年5月に開催された「G7茨城・つくば科学技術大臣会合」

(3) 中国，韓国及びアジア各国との交流の進展

国における領土問題や従軍慰安婦問題の影響により，市においても中国及び韓国との交流を休止していた時期がありましたが，その後，政府レベルで徐々に関係改善の兆しが見えてきたことから，友好都市である中国深圳市とは平成26年度から交流を再開し，交流協力意向書を締結している韓国大田市とも，平成28年度以降徐々に交流を再開する方向です。

この2市とは，今後，特に経済活動を主とした交流が想定され，海外からの投資の呼び込みとともに，市内ベンチャー企業の海外進出への足掛かりにつなげることも期待できます。



友好都市 中国・^{シンセン}深圳市との直行便就航

さらに、深圳市以外の中国各都市や、インドネシア、ベトナム、モンゴルなどアジア各国からの筑波研究学園都市を中心とした視察受入れが増加傾向にあり、それらの各都市との企業交流の兆しも見え始めています。

(4) 国際化教育の更なる充実

つくばインターナショナルスクールにおいては、つくば市や茨城県、関係機関が支援をしてきた中で、平成26年6月に、国際バカロレア中等教育課程（MYP）の認定を受けました。

平成29年度には、つくばインターナショナルスクール及び茗溪学園高等学校が国際バカロレア高等教育課程（DP）の認定を受ける見込みであり、また、市内の各大学においては、すでに国際バカロレアDP取得者の受け入れを開始しています。これらにより、小学校から大学まで国際的なレベルの高い教育が市内で修了できることとなります。

これは、教育分野において、市の「教育日本一」施策と双璧をなすつくばの優位点であり、関係機関の連携による支援と国内外へのPRを一層図る必要があります。



つくばインターナショナルスクール第5学年による研究発表会

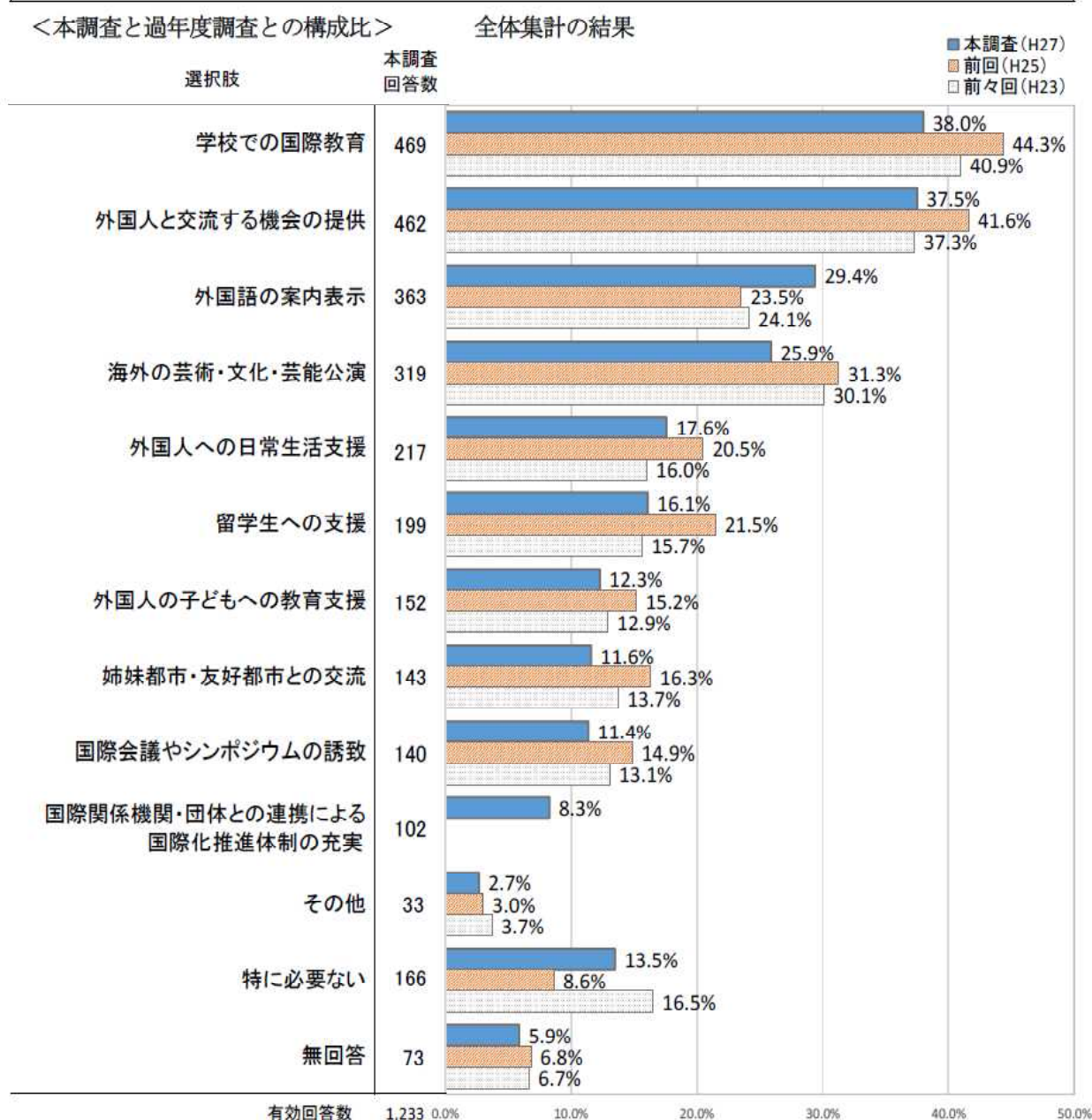
4 グローバル化に向けた課題とその解決に向けた施策の方向性

これまでの国際化に向けた取組の評価の参考として、市民意識調査及び外国人生活アンケートの結果は以下のとおりです。

(1) 市民意識調査結果

市民意識調査における「国際都市としてつくば市が取り組むべきことは何ですか」という質問に対する過去3回（H23・25・27）の回答結果から、次のような課題が伺えます。

問 あなたは、「国際都市」として、つくば市が取り組むべきことは何だと思えますか。〈3つまで〉



※「国際関係機関・団体との連携による国際化推進体制の充実」は、本調査から追加した選択肢

① 全体集計の結果

- つくば市が取り組むべきことについては、前回調査と同様に「学校での国際教育」が469人(38.0%)で最も多く、次いで「外国人と交流する機会の提供」が462人(37.5%)となっています。
- 過年度調査と比べると、「外国語の案内表示」は増加し、「学校での国際教育」、「留学生への支援」及び「海外の芸術・文化・芸能公演」は減少しています。

② 傾向

過去3回の調査結果を見ると、最新の平成27年度では、当該年度から新たな項目（国際関係機関・団体との連携による国際化推進体制の充実）が増えたことと、「特に必要ない」の回答が増えたことにより、全体的に従来の順位を維持しながら各項目の割合が減少しています。そのような状況にもかかわらず、「外国語の案内表示」だけが過去2回の調査結果以上の割合となっています。

市内の案内板の多言語化については、市のみならず民間事業者等においても積極的に取り組んでいるところですが、まだまだ不十分であることを再認識させられる結果となっています。

(2) 外国人生活アンケート結果（P.27参照）

外国人のための生活アンケートを実施した結果の概要は以下のとおりです。

- ①「心配なことや困っていること」において、「日本語がわからない」が圧倒的に多く、次いで「公共交通が不便」となっています。
- ②「国際都市としてつくば市に充実してほしいこと」において、「外国語の案内表示」が上位に来ていることから、市民意識調査結果と同様、案内板の多言語化が十分でないという意見が多いことがわかります。さらには、「市役所からの手紙の翻訳」も上位に来ており、市

としては、発信する情報の多言語化を進めているものの、外国人から見るとまだまだ不十分であることがわかります。

- ③「毎日の生活における満足度」においては、概ね満足度は比較高い結果となっていますが、「市の広報・ホームページ」についてのみ、若干満足度が低い結果となっています。市の広報・ホームページについても、一層の充実が求められる結果となっています。

(3) 課題解決に向けた施策とその方向性

つくば市のグローバル化における現状の課題は、(1),(2)における指摘事項及びⅡ-3に掲げたグローバルな環境の変化への対応です。

つくば市が今後、より一層グローバル化を推進し、つくば市未来構想に掲げる未来像「住んでみたい 住み続けたい まち」を実現していくためには、グローバルな環境をさらに整備していくとともに、世界に目を向け、国内外から様々な投資を呼び込む施策が必要です。

特にグローバルMICE誘致の促進やつくばへの投資の呼び込みについては、従前の基本指針ではこれらに対応した施策・取組が十分に示されておらず、新たな施策を策定することが急務になっています。

これとあわせて、多文化共生を目指す取組については、まだまだ行き届いていない部分も指摘されていることから、市のグローバル化の根幹をなすものとして、これまで以上に関係機関・団体等との連携を密にした協力体制の下で進めていくなど、市が一体となった施策の展開が求められています。

さらに、つくば市では、平成26年3月に「スポーツで“つながる”まち つくば」を基本理念とする「つくばスポーツ推進計画」を策定しました。施策のひとつ「スポーツを通じた交流の促進」の中に、「スポーツを通じた国際交流」が挙げられています。今後、2019茨城国体、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会と、スポーツへの

関心が高まる時期でもあることから、多文化共生社会の実現に向けた施策として、スポーツをキーワードとした国際交流機会の創出等も盛り込む必要があります。



Ⅲ 国際化基本指針の理念

「世界が集い，世界に羽ばたくまちの創造」

前項に掲げたように，つくば市では，地域社会はもとより，新たに世界をみすえた「グローバル化」の視点を踏まえ，「世界が集い，世界に羽ばたくまちの創造」を理念に掲げ，「多文化共生社会が実現するまち」，「国際連携により，世界に羽ばたき，つながるまち」，「グローバルな魅力の発信により，人や投資が集うまち」という3つの基本施策により，グローバル化施策を総合的・計画的に推進し，「住んでみたい 住み続けたい」まちの実現を目指します。

つくば市には世界各国の人々が多数居住しており，科学・技術研究をはじめとして多様な活動をしています。これからは，こうした多様な文化を背景とする人々に出会い，互いに認め合い，理解を深められる地域社会を創造することが重要です。

それには，日本人にとっても外国人にとっても快適で魅力あるまちを創造すること，住民すべてが国籍や文化の違いを越えて融合し，だれもがグローバル化のメリットを実感し享受できる環境をつくる必要があります。

このような「国際都市つくば」の特性と世界に目を向けた取組が，多文化共生社会の形成を促すとともに，人や投資の呼び込みにつながっていきます。

Ⅳ 基本施策

1 多文化共生社会が実現するまち

地域社会においてもグローバル化が進展する中、私たちは自国の文化や歴史に誇りを持つとともに、他国の文化や歴史に対しても理解を深め、それを受け入れていくことが必要です。

日本人と外国人の双方が歩み寄ることにより互いに理解し合い、外国人が地域社会に溶け込めるよう、多文化共生社会の形成を目指していきます。

2 国際連携により、世界に羽ばたき、つながるまち

「科学技術の国際戦略拠点」を形成するために、研究・教育機関や企業、市民・関係団体等との幅広い連携を構築し、海外との交流をさらに推進します。

さらに、基本施策3にもつながる施策として、インバウンド（海外からの旅行客）に対応する施策や、グローバルMICEの誘致、市内企業の海外進出を後押しする施策を、それらの連携により積極的に推進していきます。

3 グローバルな魅力の発信により、人や投資が集うまち

つくばが世界に誇れる「科学・技術研究」、「教育」、「環境」などを世界に発信することで、国内外から人や投資を呼び込み、「住んでみたい 住み続けたい」まちの実現を目指します。

V 基本施策ごとの個別施策と主な取組

IVに示した基本施策を実現するための個別施策及び主な取組は以下のとおりです。
(全体の体系は、26ページを参照)

1 多文化共生社会が実現するまち

(1)外国人を対象とした相互理解の形成

①関係機関，市民団体等との連携の強化

「国際都市つくば」として、すべての人に快適な都市環境や住みやすい生活環境を整備するためには、インフラの整備だけでなく、関係機関，市民団体等相互の連携が不可欠です。

市内には、筑波研究学園都市の草創期から活動している民間国際交流団体や、一般財団法人つくば市国際交流協会など多数の団体が活動しています。これらの団体との連携をより一層強化し、外国人住民の支援はもとより、様々なグローバル化施策を推進していきます。



市民団体による留学生の支援活動

②外国人への生活支援の充実

外国人住民が日本で安心して生活するためには、日本の社会ルールや習慣などを知ることが非常に重要です。

市としては、外国人住民のための生活便利帳（英語版・中国語版）、地域の概要がわかるマップ（英語版・中国語版）等を、その他の多言語化された市の情報とともに窓口で配布し、外国人住民が安心して生活ができるようサービスの向上に努めていきます。

また、市役所窓口における通訳サービスの拡充や、市が発信する多言語版ホームページの内容をより充実させるとともに、情報の発信においては、SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)も積極的に活用して、外国人住民に有益な情報の提供に努めます。

さらには、一般財団法人つくば市国際交流協会等で行われている外国人に対応した相談窓口については、利便性を考慮した事業を推進していきます。

なお、日常生活において欠かすことのできない医療・福祉分野や災害が発生した場合などの非常時においては、日本語が十分にできない外国人でも安心できるよう、関係機関と連携・協力して、医療通訳ボランティアの派遣やSNSによるリアルタイムな多言語の情報発信を行っていきます。



留学生交流員による6か国語の外国語広報紙の発行

③日本語学習機会の充実

外国人が日本で支障なく生活できるよう、一般財団法人つくば市国際交流協会やボランティア団体が日本語講座を開催しています。今後は、外国人のニーズに応えられるよう、それらの機関・団体等が連携し、年代を問わずできるだけ多くの外国人が受講できるよう振り分けるなどして、日本語学習機会の拡充に努めていきます。

④公立学校におけるグローバル化対応能力の強化

外国人児童・生徒や保護者等との意思疎通が円滑に行われるよう、ボランティア等を活用して、公立学校におけるグローバル化対応能力を強化していきます。

⑤都市施設等のグローバル化対応の推進

公共施設、交通機関、道路等の案内板に外国語又はローマ字ルビを併記するなど、外国人にとっても住みやすい都市環境の整備を推進していきます。

⑥国際交流イベントの推進

国籍を問わず誰もが自由に参加できるイベントの開催は、多文化共生社会への意識啓発や外国人の社会参加につながる重要な取組です。現在開催されている主なものとしては、国際色豊かな「国際交流フェア」や「つくばワールドフットサル」が挙げられます。今後は、市内各所で開催されている国際交流イベントの主催者相互が情報を共有するとともに、一般財団法人自治体国際化協会（CLAIR）などが実施する、多文化共生施策に対する助成制度も活用して、さらに多くの市民が参加できるよう工夫を重ね、つくばの特性をいかした国際交流を推進していきます。

⑦スポーツを通じた国際交流の推進

前項に掲げた国際交流の中でも、「スポーツでつながるまち」を目指すつくば市として、言葉が通じなくても交流ができるスポーツイベントの開催は、国際交流の機会創出に大変有効です。

新たなスポーツイベントを企画するだけでなく、「つくばワールドフットサル」など、既存のイベントを外国人も参加しやすくするなどして、各種イベントへの外国人参加率を上げる取組を推進していきます。



つくばワールドフットサル

(2) 市民を対象とした国際社会への適応能力の育成

① 市民における多文化共生社会への意識啓発

地域社会において、国籍、民族、文化の違いを問わず、すべての市民がお互いの違いを認め合うことが多文化共生社会の原点であることから、パンフレットの配布や国際交流イベントなどを通して、市民の意識啓発を図っていきます。

それらの中でも、近年増加しているイスラム系の外国人に対応するため、ハラール（イスラム教義に基づく食品等の規格）への理解や、飲食店におけるハラールメニューの提供の促進など、啓発活動に努めます。

②地域コミュニティの活性化

地域コミュニティにおいてもグローバル化は必要で、外国人住民との接点を持ち、つながりを持つことが重要です。外国人が地域コミュニティに参加しやすい環境の整備や、外国人の参加意識の高揚を図っていきます。

③学校における国際理解教育の充実

学校教育において、大学・研究機関等との連携を深め、外国人研究者や留学生が母国を紹介する国際理解講座を開催することなどにより、国際感覚や、国際社会の中で主体的に行動したり発信したりすることのできる能力を育む国際理解教育を充実していきます。



小学校における国際理解講座

④市民における国際感覚の涵養

市民が国際感覚を養い、世界への視野を広げ、国際社会の一員として異文化を理解し受け入れられるよう、様々な行事や事業への参加などを促進していきます。

その一例として、BiViつくば地域交流センターなどを活用し、日本人と外国人とが気軽に交流できる機会を定期的に創出して、市民の外国語能力や外国人とのコミュニケーション力の向上を図っていきます。



幅広い層の市民が集まって英語で気軽に会話を楽しむ
「City Chat Café」

⑤姉妹都市をいかした市民交流の促進

つくば市には、米国に3つ、仏国に1つの姉妹都市、中国に1つの友好都市があり、韓国にも友好的交流を継続している都市が1つあります。

これらの姉妹都市、友好都市とのスポーツ交流や、オリンピックホスト国として海外都市の選手を招致して青少年と交流するなど、国際感覚の涵養とともに次世代に感動を与える事業を推進します。



アーバイン市とのE-mail交流に参加した中学生

⑥行政のグローバル化対応

グローバル化に向けた施策を実現していくため、市職員自らが豊かな国際感覚とグローバルな視点を持って対応できるよう、充実した研修を行うとともに、専門職員を配置したり、臨時職員を雇用するなど組織体制の整備に努めていきます。

2 国際連携により，世界に羽ばたき，つながるまち

(1)世界とつながるネットワーク化の促進と人材育成

①世界とつながるネットワークづくり

市内の研究機関や大学，企業等においては，世界各都市の同様の機関等との間でそれぞれ連携・協力関係が構築され，人的交流なども日頃から活発に行われています。

そのような中で，平成27年10月に市内で開催された，世界の科学技術都市による国際会議「ジャイアント・ハイレベル・フォーラム」の誘致と会議そのものの成功は，それらの連携・協力関係の集積の賜物であり，世界に向けた「科学技術都市つくば」のブランド力の更なる向上につながりました。

今後は，このような研究機関や大学，企業等における世界との交流関係を市としても共有し，さらには茨城県やその他行政・政府関係機関と緊密な連携関係を構築することで，科学技術振興に資する国内外の都市との交流機会の拡大など，つくば市の特性をいかした世界につながるネットワークづくりの展開を図っていきます。

②グローバルな教育環境による世界に羽ばたく人材の育成

市内においては，国際的に認知度の高い国際バカロレア（IB）教育プログラムによる初等教育から大学卒業までの一貫した教育環境が整いつつあります。市としては関係機関と連携を図りつつ，この教育プログラムの認定を受けた学校を支援していきます。

このような教育環境とあわせ，教育日本一を目指したつくばの教育や，1-(2)-⑥の姉妹都市交流において，学生同士によるICTを活用した気軽なものから，フェイス・トゥ・フェイスの交流など，相互の交流機会を増やし，異文化理解を促進するとともに，世界に羽ばたく人材の育成を図ります。

(2)世界をフィールドとする経済活性化の推進

①グローバルMICEの誘致推進

つくば地域における国際会議の誘致実績は、全国でもトップレベルにあります。G7茨城・つくば科学技術大臣会合開催にかかる支援やおもてなしの経験、さらには当該会合の開催に伴い充実した宿泊施設をいかし、研究機関や大学、企業における新たな国際的連携・協力関係構築の拡大を支援するために、グローバルMICE（マイルス：国際会議等の総称）の誘致を推進します。



行政、関係機関そして市民が一体となっておもてなしした大臣会合

②企業の海外進出支援

G7茨城・つくば科学技術大臣会合の開催によりブランド力がさらに高まった「つくば」のネームバリューをいかし、中国ハイテクフェアなど各国で開催されるビジネスフェアにおいて、市内のベンチャー企業等の国際的イベント等への出展や、海外進出を支援することにより、市内経済の活性化を促進します。



中国ハイテクフェアにおけるベンチャー企業の出展

3 グローバルな魅力の発信により，人や投資が集うまち

(1)つくばならではのグローバルな魅力の発信

①つくばのグローバルな魅力を再発見し内外に発信する

科学技術だけがつくばの魅力ではありません。外国人から見たつくばの魅力は，日本百名山に代表される筑波山はもとより，街並みのちょっとしたたたずまいなど市民が気づかない意外なところに点在しています。

このようなつくばのグローバルな魅力を多角的にリサーチ，再発見し，国内外に発信することで，内外の旅行者の増大を図るとともに，定住化へとつなげていきます。

②世界に向けたPRの促進

G7茨城・つくば科学技術大臣会合開催を機に，つくばは再び世界の注目を浴びています。海外向けのPRツールの充実を図るとともに，海外におけるPRの機会を積極的に活用し，茨城県や関係機関等と連携，協力しながら世界に向けたPRを積極的に促進することで，「TSUKUBA」のブランド力を一層高めていきます。

(2)人や投資を呼び込みつくばの発展につなげる

①グローバル化教育の充実を世界に発信する

市内の研究機関，大学等に赴任する外国人研究者等の中には，家族で滞在することを希望する方も多数います。

1-(1)-④に示した公立学校における外国人児童生徒への対応や，2-(1)-②に示した国際バカロレアの充実などは，彼らの子弟の教育環境に安心感を与え，優秀な研究者等の誘客へとつなげていくことができます。

このような充実したつくばのグローバル化教育のシステムを，関係機関と支援していくとともに，世界に発信していきます。

②各種イベントをいかし人や投資を呼び込む

市内では「つくばフェスティバル」、「まつりつくば」、「つくばサイエンスコラボ」、「農業フェア」、「産業フェア」など、物産品やハイテク機器を出品してビジネスにつなげることができるイベントが各種開催されています。



国際色豊かなつくばフェスティバル

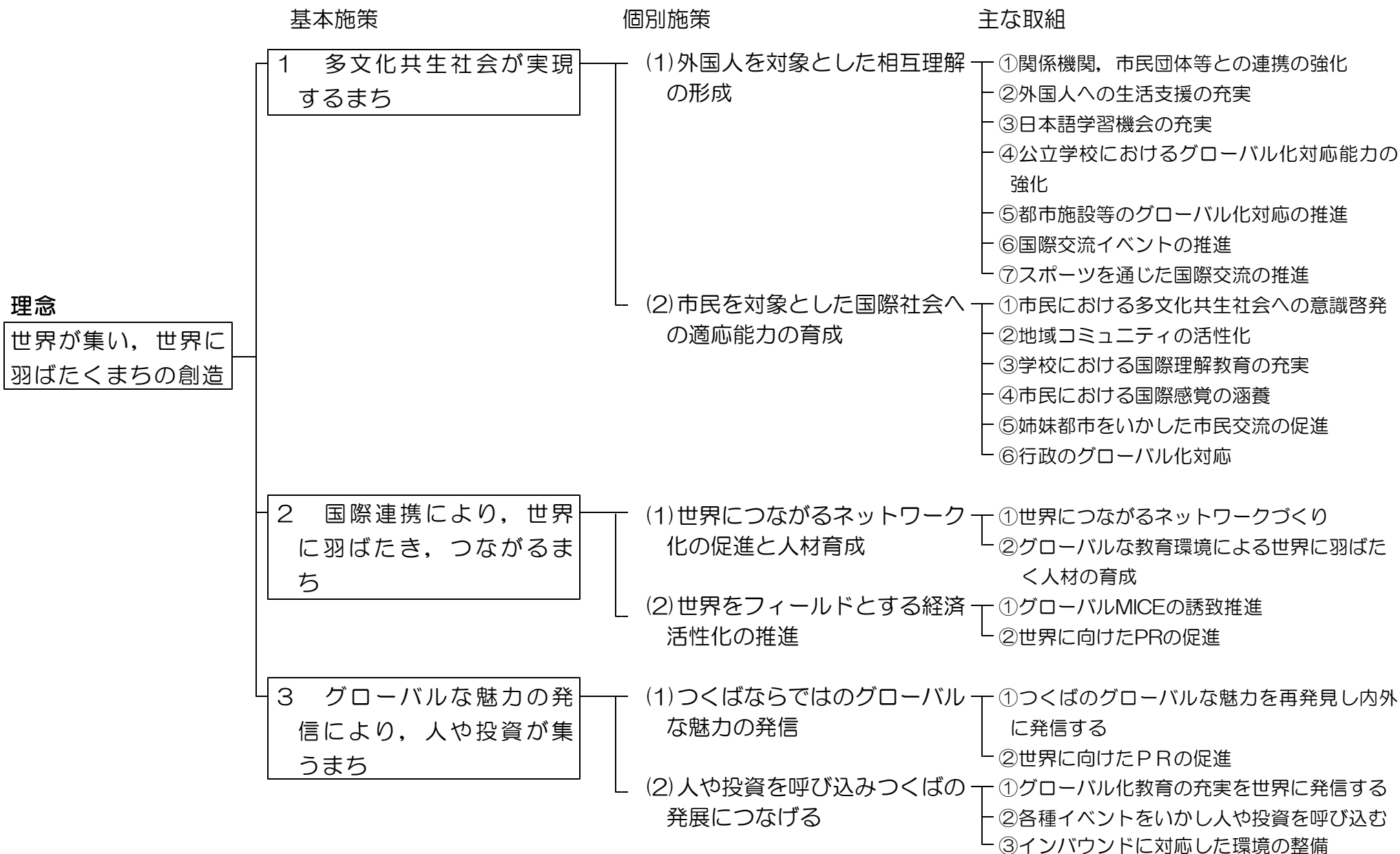
これらのイベントに、姉妹都市等からの物産や企業の出展を促すなどして経済的な流通を促進するとともに、海外の優良企業の誘致など、人や投資の呼び込みにつなげていきます。

③インバウンドに対応した環境の整備

日本を訪れる外国人旅行者が2千万人を越えようとしている中、成田国際空港とのアクセス向上や、茨城空港における中国主要都市との直行便の就航等が相まって、市内においても、外国人旅行者は確実に増加しています。

商業施設内における案内板の多言語化だけでなく、指差し案内板等を用いた外国語対応、外国人に対する対応法に関するセミナーの開催など、外国人旅行者に対応した施策をさらに推進していきます。

第2次つくば市国際化基本指針の体系



《外国人生活アンケート集計結果》

実施日 平成27年5月9日(土)・10日(日)

場所 つくばセンター

対象者 つくばフェスティバルに来ていた外国人を無作為に選んでお願いしました。

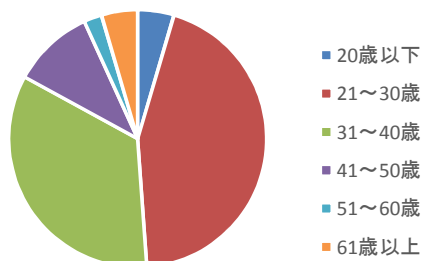
その他 英語による調査・回答

回答者 88名

●アンケート結果

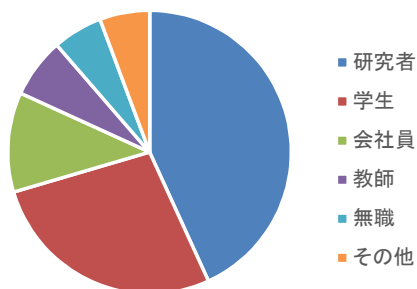
1 年齢

	人	
20歳以下	4	5%
21～30歳	39	44%
31～40歳	30	34%
41～50歳	9	10%
51～60歳	2	2%
61歳以上	4	5%



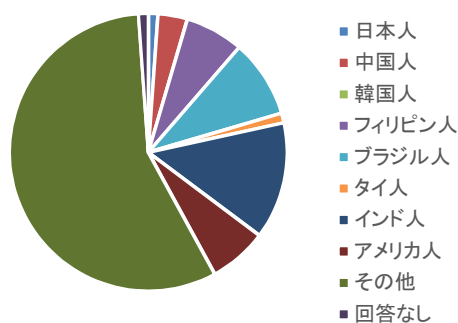
2 職業

	人	
研究者	38	43%
学生	24	27%
会社員	10	11%
教師	6	7%
無職	5	6%
その他	5	6%



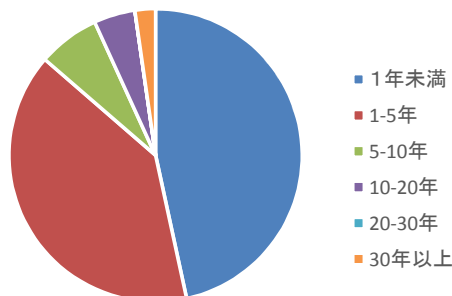
3 国籍

	人	
日本人	1	1%
中国人	3	3%
韓国人	0	0%
フィリピン人	6	7%
ブラジル人	8	9%
タイ人	1	1%
インド人	12	14%
アメリカ人	6	7%
その他	50	57%
回答なし	1	1%



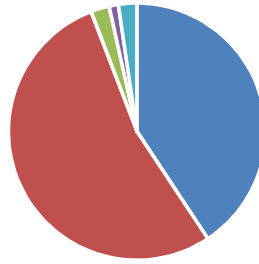
4 つくば市に住んでいる期間

	人	
1年未満	41	47%
1-5年	35	40%
5-10年	6	7%
10-20年	4	5%
20-30年	0	0%
30年以上	2	2%



5 つくばの住み心地

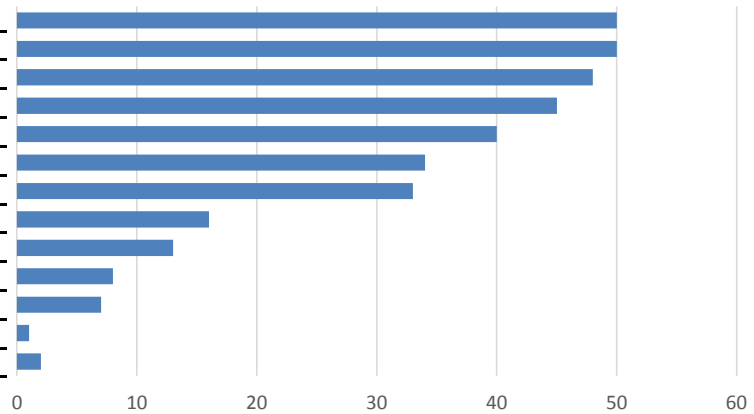
	人	
とても住みやすい	35	40%
住みやすい	46	52%
どちらかといえば住みやすい	2	2%
住みにくい	1	1%
どちらとも言えない	2	2%



- とても住みやすい
- 住みやすい
- どちらかといえば住みやすい
- 住みにくい
- どちらとも言えない

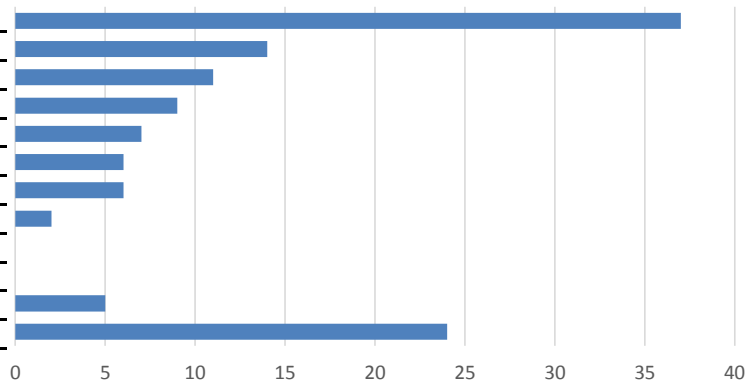
6 住みやすいと感じる理由(複数回答)

	人
自然豊か	50
日常生活が便利	50
安全	48
通学・通勤に近い	45
教育や文化の環境が良い	40
公共施設が充実している	34
交通が便利	33
医療機関や福祉サービスが充実	16
居住環境が良い	13
住み慣れている	8
家族が近くにすんでいる	7
住みやすいと感じるところはない	1
その他	2



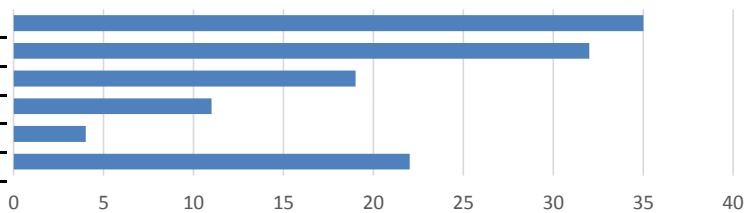
7 心配なことや困っていることはありますか(複数回答)

	人
日本語が分からない	37
公共交通が不便	14
お金(財政面)	11
仕事や職場	9
住宅	7
健康	6
災害や犯罪	6
子供の保育や教育	2
老後	0
近所付き合い	0
その他	5
特になし	24

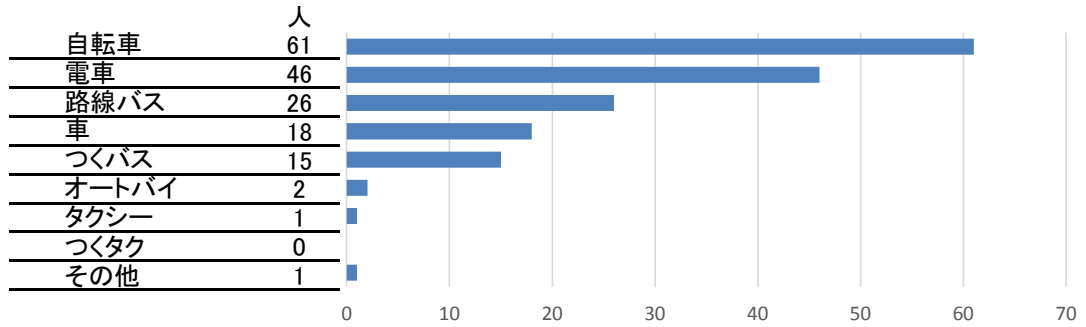


8 防災対策は何かしていますか(複数回答)

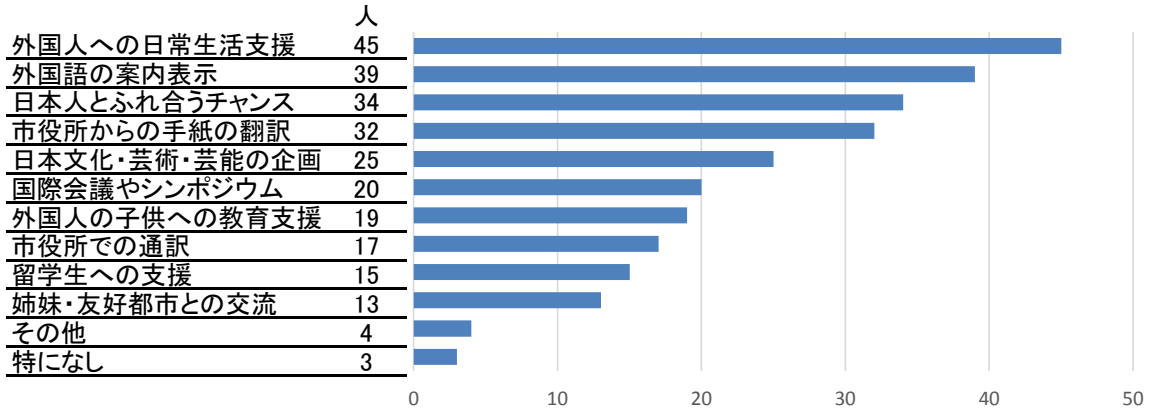
	人
防災用品・食料・水の用意	35
災害時の避難経路や避難場所の確認	32
防災訓練に参加	19
家を耐震構造にしている	11
その他	4
特になし	22



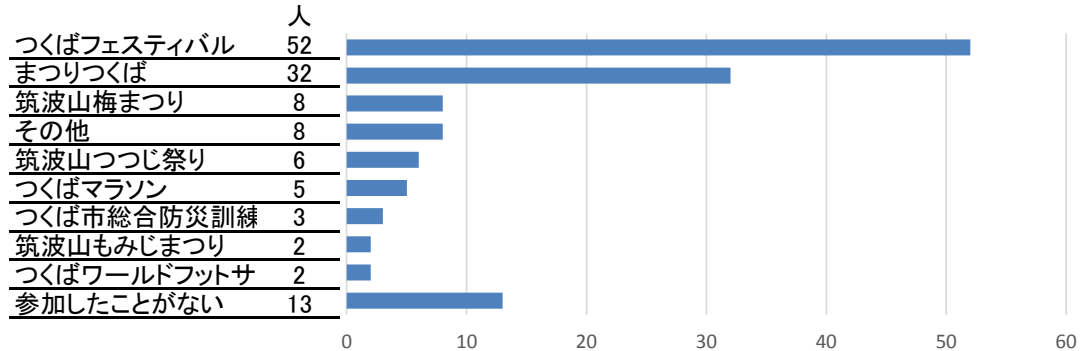
9 よく利用する交通手段は何ですか(複数回答)



10 「国際都市」として、つくば市に充実してほしいことは何ですか(3つとかいてあったが複数チェックあり)



11 参加したことがあるイベント(複数回答)

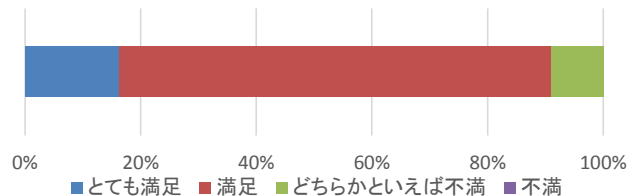


12 あなたは、毎日の生活で、どれくらい満足していますか。

(1) 病院などの医療機関

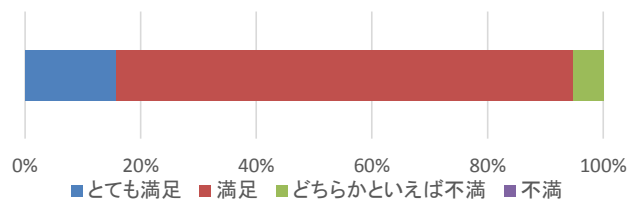
※以下、「分からない」「回答なし」以外をグラフ化

満足度	人	割合
とても満足	9	10%
満足	41	47%
どちらかといえば不満	5	6%
不満	0	0%
分からない	29	33%
回答なし	4	5%



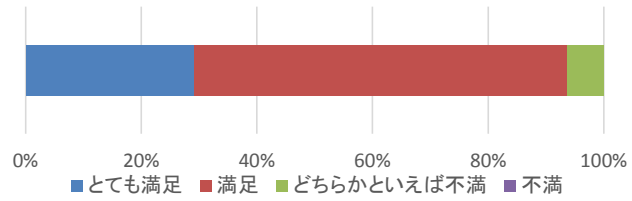
(2) 保育園・学童クラブなどの子育て支援サービス

満足度	人	割合
とても満足	3	3%
満足	15	17%
どちらかといえば不満	1	1%
不満	0	0%
分からない	60	68%
回答なし	9	10%



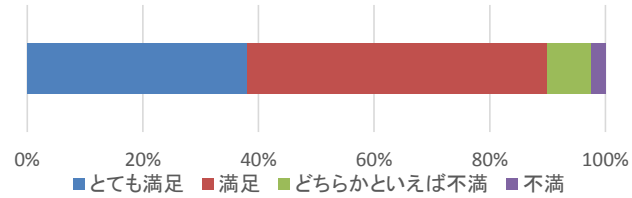
(3) 災害対策と消防対策

	人	
とても満足	14	16%
満足	31	35%
どちらかといえば不満	3	3%
不満	0	0%
分からない	34	39%
回答なし	6	7%



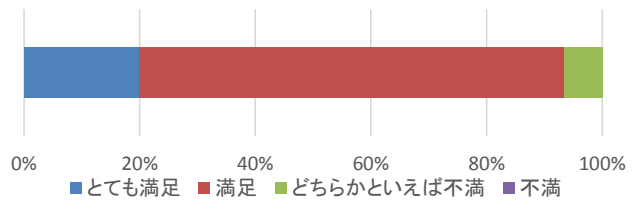
(4) ごみ処理

	人	
とても満足	30	34%
満足	41	47%
どちらかといえば不満	6	7%
不満	2	2%
分からない	5	6%
回答なし	4	5%



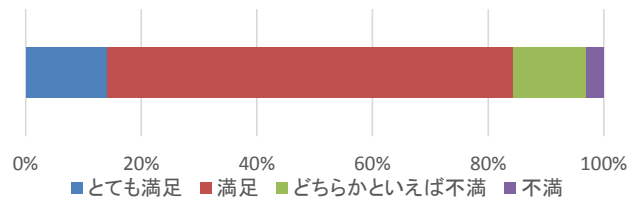
(5) 地域交流センターや図書館などの文化施設

	人	
とても満足	12	14%
満足	44	50%
どちらかといえば不満	4	5%
不満	0	0%
分からない	23	26%
回答なし	5	6%



(6) 文化・芸術

	人	
とても満足	9	10%
満足	45	51%
どちらかといえば不満	8	9%
不満	2	2%
分からない	18	20%
回答なし	6	7%



(7) 市の広報・ホームページ

	人	
とても満足	9	10%
満足	28	32%
どちらかといえば不満	13	15%
不満	2	2%
分からない	31	35%
回答なし	5	6%

